

## 令和4年度 社会教育委員会（第5回） 議事要旨

### ◇日 時

令和5年1月17日(火) 午後7時～午後9時

### ◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室2

### ◇出席者

【委員】土屋委員長、大島副委員長、勝又委員、鈴木委員、小澤委員、  
一之瀬委員、小田委員、志田委員

【事務局】古谷生涯学習課長、齊藤係長、渡邊主幹

### ◇会議次第及び内容（○は委員の発言）

#### 1 開 会 （事務局）

#### 2 委員長あいさつ

一年たつのは早いもので、今年度は答申しなければならない年。答申の検討前の最後の委員会になり、今日は皆様に沢山のご意見を頂き、最終的には答申作成委員会で原案を作る流れでいく。答申作成委員会は市民活動実行委員会の委員でやらせてもらう。次回の3月には原案を元に皆様の意見を頂き最終的な決定の形としていきたい。

今日は市民活動の集いの中で今回の諮問の中に入っていた放課後子ども教室に関する話し合いの意見が出ているのでまとめて印刷した。これを参考に話し合いを進める。沢山のご意見をいただきたい。

#### 3 報告事項

- ・各種委員会委員会の会議報告  
特になし
- ・市民活動の集いの報告について  
12/18開催、62名参加。三鷹市貝ノ瀬教育長の「地域創生から考えるコミュニティ・スクール」についての講演後にグループワークを実施。
- ・令和5年度放課後子ども教室「放課後学習支援事業」について  
事務局から、すそのん寺子屋事業の現状と課題、本事業の事業概要、スケジュール等について説明した。
- ・令和5年度人づくり・地域づくり講座について  
人づくり、地域づくりが進んでいなかったところで、令和5年度からのやり方と予算要求について説明。その予算では、新規に近い事業になるので、役所だけ

ではなく社会教育委員の方にもニーズと対応を相談しながら進めたいと考えている。特に小田委員の経験値を生かして進めたいと考えている。

・令和5年度教養講座について

指定管理者から引き継ぎ生涯学習課で実施していく。配布資料の講座一覧のとおりに来年度も本年度と同内容実施予定。なお、14番に音楽的・美術的要素のあるものを追加する予定。講師料は1回6000円、受講料は1回400円で今と同額。他にはお花・お料理等は材料費がかかり、講師が受講生から徴収する。

(協議事項は委員長が進行)

#### 4 協議事項

・「学校を核とした地域づくりのための環境整備」について

市民活動の集いで、貝ノ瀬先生からいただいた資料で、三鷹市の例であり事務局に分けてもらったもの。資料の右側ブロックのスクール・コミュニティの創造地域の共有地コモンズとしての在り方が参考なるので出させてもらった。

貝ノ瀬先生はコミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへの移行を提唱している。スクール・コミュニティは学校発とした地域作りであり、コミュニティ・スクールは学校教育が主体で地域の人達とコミュニティしながら学校作りをしていくイメージがあるが、貝ノ瀬先生はスクール・コミュニティとは学校を共有地として使い、地域作りを進めていく方針で、地域側に重点を置いている。学校を3部制として使う考えで、第一部は学校教育の場、第二部は多様で豊かな新しい形で私たちが検討する放課後子ども教室が一つの例として入ってくる。第三部は開放の活動の場で大人が学校を使っていくというもので、この3つで学校を使って地域作りをしていくという提案の方であり、参考に出させてもらった。

検討課題は裾野市の放課後子ども教室の在り方について、A3用紙を使用して進める。

地域色があり、一概に当てはまるとは思えないが、スタンダードな形を作り、その中から使えるものを地域ごとに使ってもらいたいと思っている。表は当日市民活動の集いに参加してくださった方の意見をまとめている。これは現場の人たちの声として扱い、これを私たちの答申の中に何を取り入れていけるかを考えていきたい。子どもを育てる実践例から現状把握として答えてもらっている。これを踏まえて更にできることを考えていきたい。

この中から答申に載せたいものを絞っていきたい。地域で子どもを育てる活動であり、授業のサポート的内容はない。今回は、今までやってきた仕組みで地域の方が授業のサポーターをしていた部分はなくす。地域でやっている事のみを書いている。全部載せても良いが答申が長すぎる、事柄だけを載せていければと考える。

##### 資料説明と意見交換

(1) の現状についてはこの様な案があるという感じで答申に載せる。

(2) 地域の声から、放課後子ども教室の内容について進める。

・名前を呼びあえる関係、地域を好きになるところが地域学校協働活動の目的になっているのではないかと。もっとできることで出ていることは例。地域学校協働活動を何のためにやるのか、地域の子どもの含めた人間関係づくりのためということを抑えたい。

- ・地域の人間関係づくり、その時代、時期に生活しているなかでその地域の人を信頼し安心して生活できる地域をつくっていくことが大切でそのための環境仕組みを作っていくということでもいいと考える。
- ・地域に愛着を持ってもらえればいい。
- ・統括的地域学校協働活動推進員を1人生涯学習課に常駐させる。
- ・地域コーディネーターを仕事としてやる人が必要。地域おこし協力隊制度の活用。

## 5 その他

- ・2/21 社会教育関係者研修会の参加について（静岡市 9：45～12：00）
- ・令和4年度富士・沼駿ブロック社会教育委員研修会について  
1/24日 11：45 集合・準備（裾野市生涯学習センター）
- ・第6回会議の日程について  
3月9日（木）19:00～ 生涯学習センター2階学習室2において開催

## 6 閉 会（大島副委員長）